

## 重要伝統的建造物群保存地区「白峰集落」の活性化に向け、 地域特性を活かした魅力あるまちづくり（日本のモデル山村を目指して）

指導教員 金沢工業大学 環境建築学部・教授・谷明彦

参加学生 中野恵介、小室美優、他 3名

### 1. 調査研究成果要約

今年度、本研究室では地区内の観光資源の魅力向上と観光客向上を目指し、‘観光資源の活用に向けた活動’‘情報発信のための活動’‘住民との連携に向けた活動’を行ってきた。観光資源の魅力向上に伴い、住民の満足度と観光客数が向上し金銭消費を増加させることが狙いである。継続的な活動により観光客が年々増加し、住民・行政のまちづくり活動が活発化している。活性化にむけ、白峰地区に存在する地域資源の活用が重要となる。

### 2. 調査研究の目的

本研究室の活動は今年度で10年目となる。活動を開始した当初は古民家再生のモデルとして改装した雪だるまカフェを活動拠点とし、空地の整備や白峰全域模型製作など目に見えやすい活動を行うことによって、住民からの信頼を得てきた。地区のまちづくりに対する意識が向上し、まちづくりに関わる組織が発足したことで住民の活動が活発化し、2012年の重伝建選定につながった。その結果、白峰を訪れる観光客は年々増加している。その後、白峰地区を訪れる観光客の客単価の不足や滞在時間の不足という課題に直面するようになり、観光客の回遊性向上のための活動を行ってきた。

今年度は、観光客は徐々に増加してきたが、若者の観光客は少なく白峰の認知度が低いのではないかと問題に着目した。そのため、観光資源にさらに価値を付加し情報発信していくことで、白峰の認知度UPと観光客増加を目標とした。



図1 雪だるまカフェ



図2 空地のリノベーション

### 3. 調査研究の内容

活動を行う上で、主に3つの方法を用いて調査を行った。まず、文献調査である。白峰の歴史や現状を調査した。2つ目に現地調査である。白峰地区の現状を把握するために住民及び観光客にアンケート調査を行った。また、白峰地区の主要観光施設における入り込み客数や、宿泊施設の宿泊客数を調査した。3つ目は、ヒアリング調査である。本活動は学生だけでは進行できないため、住民や行政とコミュニケーションを取ることが重要である。白峰地区でのまちづくり活動の方針を統一するための提案や意見交換を行った。また、お祭りの支援をし、信頼関係構築に努めた。

以上3つの方法より、今年度の活動は活性化に向け回遊性向上を目指した。実際の活動スケジュールを表1に示す。



図3 文献調査



図4 アンケート調査



図5 お祭りの支援

表1 年間活動スケジュール

日付	活動内容	日付	活動内容
4/21	第1回 打ち合わせ	9/22	第3回 オープンカフェ
4/23	整備活動	10/23	整備活動
5/9	第2回 打ち合わせ	11/6	温泉祭り 参加
5/29	若葉祭り 参加・ 第1回 オープンカフェ	11/26	整備活動
6/28	石積緑化	12/15	整備活動・伝建審議会 参加
7/13	整備活動	12/22	整備活動
7/17	白山祭り 参加・ 第2回 オープンカフェ	2/3	雪だるま祭り 参加

#### 4. 調査研究の成果

今年度の活動は大きく分けて3つに大別される。それぞれの活動について以下に示す。

##### ◆観光資源の活用

##### ◇雪だるまカフェ・ガーデン整備

雪だるまカフェでは、店内環境を整え、来客者の増加や満足度・滞在時間の向上を目指した。具体的には、1・2階の整理や照明の一新、エプロンのリニューアルを行った。雪だるまガーデンでは、カフェからの景観配慮と来村者の利用促進を目指した。具体的には、雑草の除草作業や白峰のテーマカラーである白い花（スイセンやハギなど）の植え付けを行った。また、植栽してある玉竜を雪の重みから保護するために、冬季は簀の子を敷いた。その他には、ペットを連れて来られた観光客やペットを飼っている住民の方が安心して散歩できるように犬のトイレを製作した。犬のトイレは雪だるまをモチーフにした。また、雪だるまガーデンの活用方法や設計・施工者を認知してもらうために看板の設置を行った。雪だるまガーデンは今後も継続的な管理が必要となる。



図6 エプロンのリニューアル



図7 雪だるまガーデンの看板

## ◇石積緑化

雪だるまカフェより南側は古い町並みが残る箇所としてメディアでも紹介されている。石積もその要素に含まれているが、景観阻害要素として灰色部分が剥き出ている。すでに住民の方が植えたセダムやシバザクラが繁茂している箇所や植物が根付くことによって苔が生えてきている箇所はあるものの、依然灰色が目につく。改善を目指し、6・10月に白のシバザクラや頑健で育てやすい多肉植物の植え付けを行った。



図8 石積緑化

## ◇オープンカフェ

雪だるまガーデンにて計3回オープンカフェを行った。目的としては、雪だるまガーデンの活用と白峰の特産品の販売を平行し、滞在時間の向上を促進させるためである。また、“白峰の自然を体感しながら雪だるまカフェの商品を堪能してもらう”ためにガーデンにテーブルと椅子のセットを置き、シェードを設置して安らげる空間作りを行った。これまでは白峰ピザを販売してきたが、今年度はアイスコーヒーと特産の栃の実を使った栃シューを販売した。このメニューは雪だるまカフェの特別メニューという位置付けで、営業を行ったため、ガーデンでも食事をとることができ雪だるまカフェの利益も得ることができた。今年度の営業は若葉祭り、白山祭り、9月の休日に行った。地区のお祭りの開催に合わせて行うことで、多くの集客があった。反省点として、事前の準備や宣伝不足が挙げられる。



図9 オープンカフェ

## ◇観光バス調査

金沢駅と白峰を結ぶ「ぶらり白峰特急」が運行している。今年度は10月23日に実際に乗車し、効果を検証した。白峰に到着後、白峰観光協会の方と運転手さんにヒアリング調査を行い、現状や今後の方針について伺った。また、10月31日には「ぶらり白峰特急」を担当する白山市観光課山岸さんにもヒアリング調査を行った。「ぶらり白峰特急」のできた経緯、運行状況、利用者の意見などについて伺った。



図10 ヒアリング風景

## ◆情報発信

白峰の情報源や白峰に興味を持つきっかけとしての情報が不足している。そのため、Facebook ページ「雪だるまカフェ（石川県白山市白峰地区）」を作成し、投稿・運営などの方法のマニュアルを作成した。Facebook のプロフィールやカバー写真はイメージや影響力が大きいので、写真は白峰の町並みや風景、お祭りなどの素晴らしさが伝わりやすいものにした。Facebook のメリットとしては、ホームページと比較した際に、更新が手軽さ、管理のしやすさなどが挙げられる。ここから白峰の日常風景、カフェの商品やお祭りの情報などを投稿し、外部へと宣伝・告知をしていくことを目的とした。また、本研究室の活動や白峰の歴史などをノートに投稿し、知ってもらうきっかけになる。まずは学生が管理・投稿していき、今後は地元の方にしていただこうと考えている。

また昨年度、ドローンで上空から撮影し作成した PR 動画を雪だるまカフェで流すことによって、観光客の方に白峰の自然や町並みの素晴らしさを伝えた。



図 11 上空からの白峰



図 12 Facebook ページのカバー写真

#### ◆住民との連携

活動として、まちづくり関係者との打ち合わせと地域行事への参加を行った。本研究室の活動は学生、住民、行政の三者が協働して行っている。三者間の信頼関係を築き、足並みをそろえ方向性に相違を生じさせないことが重要となる。そのためにも、打ち合わせは意見交換の場となり有効な手段である。また、地域行事に参加することで、より多くの住民と面識を持つことができる。今後の活動の担い手として地区に住む若者の存在は貴重である。今年度は若葉まつり、白山まつり、温泉まつり、雪だるままつりに研究室として参加してきた。当日はカフェの手伝いや雪のオブジェ製作を行った。

#### 5. 来年度の調査研究計画

今後に関しては、継続的な整備活動や外部に向けた情報発信を続けていく必要がある。また、継続的な地域活性化を目指し、経済の活性化や空き家の対策、雇用問題やUターン・Iターンといった移住に関することなど様々な課題を解決していく必要がある。これらの課題は、活動当初から見えていた課題であるが、解決するために段階が必要であり当時は直面することが不可能であったのである。直面することができるようになったということは、まちづくりが確実に前進していると言える。本研究室がまちづくり活動を行うことで、住民が意識せずとも間接的にまちづくりの意識を向上させ、活動を加速させてきた。したがって、今後も新たな仕掛けができるよう、またそのまちづくりに対する勢いをリードしていくために、基礎作りをする。

#### 6. 調査研究に対する地域からの評価

##### ◆小田吉一氏

小田吉一氏は、白峰地区の現区長であり、地区の住民として大きな発言力を持つ方である。以下ヒアリングより、白峰地区における谷研究室の活動は非常に評価している。地区内で若者がまちづくり活動を行っていることは、地区の住民にとって大きなやる気となっている。今後も白峰において継続的にまちづくり活動を行い、地区に活気と勢いを与えて欲しい。

地区の活性化を非常に実感しており、本研究室に対しても期待が高く、また良い影響をもたらしているといえる。今後も良好な関係の元、住民の意向に沿った活動を継続していくことが必要とされる。